

同窓会会報

第37号

創立70年記念号

(10月1日改訂発行)

富山県立上市高等学校



創立七十年を迎えて

同窓会長 藤原平蔵

上市高等学校は創立七十年記念を迎え、誠に喜ばしく感激に堪えない次第であります。

想えば大正九年郡立中新農業学校、翌十年県立上市農学校が創設(中新農業学校を併設)され、幾多変遷の道をたどった七十年の歴史は、誠に感動深いものがあります。この間一万七千余名の卒業生は、高度化社会の現状に対応し、各々与えられた職場に、雄々しく活躍されている姿こそ、同窓会の誇りであります。

同窓会として、この七十年記念に当り、記念事業の会員名簿作成・校史の編集・同窓会館の建設等の達成に、学校長・関係教職員・各部門の担当委員方々に絶大なお力添え頂き厚くお礼申し上げます。

三ヶ年にわたり、編集された記念校史は、上市高等学校の歴史・伝統・変遷などこの七十年の歩みに、心積新たなものがありました。

同窓会館の建設は、会員・関係有志の篤志により、ようやく完成の運びとなり、十月二十八日、めでたく創立七十年・同窓会館落成記念式典が挙行されることとなりました。

この七十年記念にあたり、関係者一同は、上市高等学校のより発展を念じ、使命達成々就に鋭意努力邁進を誓い、新しい歴史へと力強い第一歩を踏み出したいものであります。

創立70年を迎えて



校長

中島正雄

会員の皆様には、つつがなく御健勝で御活躍のこととお慶び申し上げます。

平素から母校の発展と充実にお寄せいただく御熱意に対し、厚くお礼を申し上げます。

お蔭をもちまして、本年10月28日に創立70年記念式典を挙げていきますことは、御同慶の至りであります。大正9年に開校以来、大正・昭和・平成へと時代の変遷とともに幾つもの荒波を乗り越えてまいりました。この間、巣立った学徒は17,002名に及び、県内外の各界で広く御活躍になっておられることは、誠に喜びにたえません。

在学当時の懐かしい師、友、行事、部活動等々が、彷彿と胸中に去来することでありましょう。この様々な感動は、青春を必死に生きた証明であり、人間形成の源泉であると私は信じております。この感動の基は、本校の建学の精神である「勤労・自治・向上」の校訓にあると思います。現代的な解釈のもとに、連綿と継承されねばならないと同時に、在校生一人ひとりが、意欲的に自己変

革できるように念じているところであります。

織物の美は、縦糸と横糸の交わりを基本にして様々な模様が生み出されるのであり、この関係は先輩・後輩の縦糸と同期生の横糸と同様であると思います。本校には他も羨む友情と結束の輪が広がっております。この度は創立70年を記念して、会員並びに協賛者の浄財をもって総工費80,730,000円、鉄筋コンクリート2階建、延面積428平方メートル（130坪）の同窓会館（10月15日竣工予定）を建設されることは、誠に感謝にたえません。在校生・後輩の活動の場も広まり、大きな励みとなるでしょう。また、「校史」も上梓されることになり、益々校風の発揚になることと喜んでいるところであります。

北宋の司馬光は「子を養って教えざるは父の過ちなり。訓導して厳ならざるは師の惰りなり。」と述べています。教職員一同、一丸となって師弟同行、本校教育の向上に精進すべく、心を新たにしている次第であります。

教頭 吉秋忠則

本校は大正9年に富山県中新農業学校として開校され、今年70年に当り、来る10月28日に記念式典と併せて同窓会館落成式典を挙げていたします。また、本校にとっては初めての「校史」の発行と記念誌「美しき70年」(写真版)が発刊されます。70年の歴史と伝統を担ってこられた先輩各位の情熱と努力の賜ものと深く感謝し今後の指標としたいものです。

この節目の年に新しい上市高校を思念する好機であると考えとともに展望を広めるための自戒と決意の年でありたいと願うものです。

人間性豊かな実践力に富む、21世紀を生きる上高生徒の教育のため私ども後輩は研鑽を積み母校の一層の充実を図りたいと思います。そのために教育環境の整備、教育内容、方法、きめ細かな生徒指導体制の確立など創意・工夫をこらした研究の推進がより必要であると思います。また、昔から「教育は人なり」と申します。それ故に教育にかかわりをもつ者誰しもが常に自己啓発を図り、生涯継続した学習態度をもつべきであると思います。

今年元号が変わったこと、創立70年が丁度重なったことを機会に、本校の「新しい高校像」をどう描くかという問題を学校自身が主体的に考察していかなければならないと考えております。人間性豊かな生徒の育成をめざし、多様な生徒に教育するにふさわしい総合制高校像をつくり、その実現に努力したいと思います。

学校ではクラブ活動を活発化するために、新しい部を設置することの検討や、第1体育館の改築・テニスコートの増設等で充実を図り、全国高校総体の競技ができる施設を確保したいと思っています。

また、国際化時代に対応するために海外の学校と姉妹校の提携を結び、まず文通からはじめ、相互訪問（ホームステイ・研修旅行）まで発展させることも考えた調査活動を進めることを立案中であります。

最後に会員各位の母校に今まで以上の御援助を切にお願い申し上げます。

創立70年を迎えて

同窓会館建設委員長 久保 英麻呂

志望して同窓会の役員になったわけではない。そのうち立山支部長を押しつけられた。そして70年を迎えることとなり同窓会館建設がきまった。昔世話になった母校のために立派なものを造りたいものと相談しているうちに建設委員長を担当させられてしまった。ポンコツ自転車に乗って何十回上市に通ったことか。……やはり問題は資金であった。1万4千人の同窓生が生存するから1億円を目標に募金を開始した。70年記念の他の行事の経費もあるので会館には8千万円程度と私は思っていた。一般の民家でも5千万円ほどのものが目につく昨今である。同窓会館と銘うって建てるには他の高校の例からしても最低8千万円、そして70年の記念行事の予定された今年10月までに落成させねばならぬ。工事に着手する今年春までに募金が完了する計画であった。



を買ったが旧立山村のもの(930-13314)が欠け追加しでもらったりした。それでも出てきた資料は立山町〇〇(集落名)までである。順序も校下別になっているわけではない。それで資料の一冊をバラして校下別の集落名を集めて各役員に渡したのであるが、その作業に老支部長延べ何十時間苦闘したことであったか。

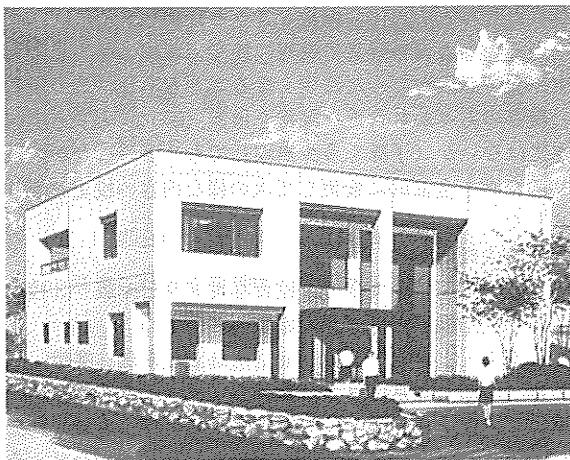
こうして現在までの募金実績はどうか。立山町では超大口の一件を含めて680人、750万円余である。同窓会の合計でも約3,600人、5,700万円余止りである。

工事は3月末に入札、4月から見切り発車で進んでいる(米井建設)が不足の募金額は約2千万円。まだ全然出してない人、出しかたの少ない人(立山町では1千円、2千円の人も多い)にもう1度お願いすべく目下資料作成中である。(平成17.7.29) 久保英麻呂



募金に当っては立山支部長の立場で動かねばならぬ。何回か支部の役員会を開き、母校の先生にも出席を求めて計画を説明して協力を求めた。立山支部の役員は旧町村(いわゆる校下)ごとに男女各1名で構成され、その顔ぶれは大体定年を迎えて時間的にも自由のきくいわば各校下の大物である。それらの人達に一肌ぬいでもらうわけであるから立山町在住の同窓生は1,500人余り、1千万円ぐらい集めたいというだけでは行動に移れない。

500頁に近い卒業生名簿から皆さんの校下の卒業生をさがし出して1人ごとに当って下さいといったのでは叱られるだけである。どうしてもあなたの校下の同窓生はこれですという資料を渡さねばならない。(隣のお嫁さんは上市高校出であったか。はじめて分るような資料)そこで本部を通じ出版社に依頼して名簿から立山町分を抽出したものを2部作ってもらった。名簿の住所の郵便番号によったもので930-02で抽出し舟橋村を含むもの



完成予想図

創立70年を迎えて

本校は、大正9年、富山県中新農業学校が創立されてから70年を迎え、その間、上市実科高等女学校の統合や、富山県立上市高等学校へと新しい道を歩んできました。この70年は、まさに、激動の時代であったと思います。昭和初期の世界的な経済恐慌、それから戦争へと歩み始め、ついに敗戦。残ったものは、荒廃した焦土と人。戦後、生き残った人々が懸命の努力と英知で、あのないないづくしの日本を今日の経済大国を築きあげた。これらのできごとは、良きにつけ、悪きにつけ、すべて、人が作ったものである。今後も社会を動かすものは、人であり、人づくりこそ最優先課題でなければならぬ。社会は、高い知性に加えて、豊かな心、如何なる困難にも屈せずやりとげることのできる、たくましい身体を持った人間

募金委員長 伊東 政信

の育成を要請している。

さて、同窓会では、この70年の記念事業として同窓会員や在校生の方々の研修の場として、同窓会館の建設が計画され、近く完成のはこびになりましたことは、まことに、喜ばしく思います。21世紀は過ちをくりかえさないで、平和で豊かな社会であってほしいものです。次代を創る在校生の方々に、この施設を十分に活用していただきたい。私は記念事業の世話人の1人として募金等を行ってきたが力が及ばず、目標に程遠い現状である。ものごとには願望や理想とは別に、現実があることは知っていたが、目標設定のアマさや現実のきびしさ、会館が完成したが、募金は、まだ終らない等々を反省している今日この頃である。

校史編集委員長 高井 正夫

◎はじめに

昭和60年代に入り、創立70年記念事業の一環として校史の編纂が発議されました。本校では、過去にも何回か記念誌が発刊されていましたが、これらをまとめ、追加して充実したものにしたなら、とのことでした。

最初に取り掛った頃は「目でみる上高70年の歩み」(仮称)とし写真を主体に編集しようとして企画しました。

いろいろと資料収集の過程に於て、創校当時の恩師先生や先輩諸氏がだんだん少くなることもあり、この際この現存の方々から貴重な証言を頂き、悔のない校史とすべきではないか(予算を多少無理しても)とのことから最初の企画を全面的に変更して次の様な内容の校史となりました。

◎校史の概要

- A 扉—(1)題字金文字 (2)校舎写真グラビヤ版 (3)校印
(4)校訓校歌 (5)関係者のあいさつ
- B 本文—(1)目次 (2)第一編富山県立上市農林学校 (3)第二編富山県立上市高等女学校 (4)第三編富山県立上市高等学校 (5)年表 (6)付録(各種規約会則・歴代生徒会長・PTA会長・同窓会長・その他)

の構成で、三頁に一枚程度写真を挿入しました。A 5判約600頁、限定1,000部(謹呈用を含む)頒価6,000円となります。

◎お礼とお願いごと

秋の式典までの完成をめざして現在印刷の段階になっています。この校史が企画されて以来、歴代学校長の指導のもと教職員22名の方が編集委員となり本務の傍ら数年間に渡り分担して企画・資料収集・原稿書き・編集会議大小約50回・合宿4回・印刷校正3回以上、等々多くの時間と御苦勞をおかけしました。また「とやま女性史」の著者藤井喜代美氏には編集指導協力を頂きました。その他御協力下さった多くの皆様方に厚くお礼申し上げます。さらに会員の皆さんに次をお願いを申しそえておきます。

(1)資料を収集しまとめて保存するために古い資料等は御寄付をお願いします。

(2)今回の70年史に次ぐ校史は今後数十年は出版されないのではないかとおられます。また、多くの方々の御苦勞の結果したものであります。この会報をお読みの皆様には是非御高覧下さいませお願い申し上げます。

婦人部の動きなど

上市実科高等女学校 第17回 (昭和18年3月卒)

坂井 小夜子

婦人部の動きと申しますと何を置きましてもチャリティーバザーの事ではないでしょうか。これは後程ご説明致す事として、私は女学校時代を思い起こすことに、上実女創校時の高邁なる精神に心打たれるのであります。巷に開口される言葉とは裏腹に高く理想を掲げられたのであります。ことに2代校長高瀬陣治先生は、最大の功勞者であり、先生の精神は長く受け継がれてきたのでした。また、第1回卒業生は明治41年から44年生れの人達で関西修学旅行の記録を読むと当時の乙女等の喜びが彷彿と蘇ってくるのです。

戦争のため19回卒の方々のアルバムがなかったので40余年振りに出来上り、此の事は新聞にも掲載されました。

今年も6月11日(日)集落センターにて第15回婦人部の集いが開催されました。来賓に藤原同窓会長、高樫勇夫先生が御出席下さいまして役員改選、母校創立70年記念事業等について話し合いましたが、記念事業について一層協力する事を決めました。顧みますと創立40年頃から同窓会館設立の声を聞きましたが、夢の様に思っていました。山本名誉会長は防火上どうしても鉄筋コンクリート建にしなければいけないとのご意見でした。さてそうなりますと、予算もぐっと違ってまいりますので、個人の募金ではこれ以上お願いしにくいとすれば、ご家庭の不用品を出して戴いたらとの案が出ました。幸いにも高校卒の若い方々の賛成を得まして、積極的に動いて下さいましたので、物品の集荷場所も二転三転致しましたが、婦人部長の「婦人部の熱意を示しましょう」の言葉に励まされ、幹部の方々はそれこそ、おにぎり片手に東奔西走なされたのです。また値付や整理にも18名出席して下さいました。前日の飾付に出席出来なかったので当日早く登校しましたところ奇麗に並べられすっかり準備されて在りました。丁度農場祭にお出でになる方々に寄って戴くよう体育館の1隅をお借りして在りました。生憎の雨天で出足が心配でしたが、定刻前よりお出下さいまして午前中は盛況でした。午後は後始末等学校側に御協力賜りました事有難く感謝致して居ります。また出品して下さいました方、お世話なされた会員の皆様は紙上をお借りして厚くお礼申し上げます。

昨年10月山本名誉会長が御逝去され、婦人部会員数名葬儀に参列致しましたが、婦人部の今日ある事などを追想しながら安らかなお眠りをと合掌いたしました。

今年3月恩師松井八郎先生が御逝去された事を知り、時間も無く級を代表して献花し葬儀に参列致しました。16回生の卓球部が弔電を献じて居られました。

創立60年の祝宴が一本杉の湯でありました時、先生は大変喜んで下さいました。先生の思い出は尽きないのですが、中でも4年生の時、明日から夏休みと云う日上市河原の報園農場で「勤勞の尊さ」や「収穫の喜び」を教えて下さいました。

学制改革の時、女学校存続のお願いに夜田校舎の前の木原の下で待っていますと、先生がふくらんだ袍を持って「今県庁へ行って来た。疲れた疲れ果てた」とおっしゃいました。此等の事を思い出し、諸先生方の深い恩愛で今日在る事を、生徒である私達は忘れない様、日々精進しなければならぬと思うのでございます。

母校創立70年を迎える此年、益々母校の発展と諸先生方のご健勝を念じ上げて居ります。

新役員名

会長	坂井 小夜子様
副会長	藤原 トミ子様
書記	湯上 志美子様
会計	石川 睦 子様

創立70年を記念して建設される同窓会館を
鯉嶺会館(けんれいかいかん)と命名
いたします。

同窓会館の命名について、生徒・職員から募集したところ「鯉」に関するものが多く、しかも、生徒会機関誌「鯉嶺」の名前など参考にし、協議した結果、鯉嶺会館と命名いたします。